

心の栄養剤NO42 「どんな仕事も」

Aさんは、自分の事務所の近くに駐車場を借りていた。その駐車場には初老の管理人がいた。定年退職後、その駐車場の管理人として働き始めたそうだ。

Aさんが駐車場を利用する度に、そのおじさんはいつも明るい笑顔で「おはようございます。今日もいい天気ですね」と声を掛けてくる。

ある日のこと、移動の途中で雨が降り出し、駐車場に車を入れた後、車から出られず困っていた。するとそこへおじさんがやってきて、「傘、忘れたんでしょ。これ持っていきな」と貸してくれた。

満車するとき、「満車」と書いた大きな看板を入りに置いておくのが普通の駐車場だが、そのおじさんは満車になると、入り口に立って、入ろうとするドライバー一人ひとりに「申し訳ありません。満車です」と頭を下げた。クレームを言う客がいると、その車が見えなくなるまで頭を下げ、見送っていた。それを見ながらAさんは、「そこまでしなくてもいいのに…」と思っていた。

ある日、車を止めてあいさつをすると、おじさんは「今週いっぱい辞めます。いろいろお世話になりました」と言う。奥さんが病気になっらしい。

残念に思いながら、最後の日、Aさんは感謝の気持を込めて手土産を持っていった。そして駐車場に着いたとき、Aさんは信じられない光景を見たのだった。

小さなプレハブの管理人室の周りがたくさんの人で溢れていたのだ。そして管理人室の中も外も、たくさんの手土産や花束でいっぱいだった。一人ひとりがおじさんにお礼を言ったり、握手したり、写真を撮ったりしていた。

Aさんは、「仕事ってこれなんだなあ」って教えられたという。

「どんな仕事も楽しくなる3つの物語」より

あと1ヶ月あまりで今年も終わります。振り返ると北京オリンピック開催など、とてもハデな印象の前半と打って変わって、特に日本にとっては降って湧いた感じの金融不安の暗い感じの後半の一年だったと思います。最近も～悲観的な暗めのニュースを聞く毎日という状況ではありますが・・・私たちにできる事は、地に足をしっかりつけて、目の前の問題（仕事）に全力を上げる事しかないんだよ～そして、ベストを尽くしていると、いろんな形で必ず報われるんだよと教えられるような話だと思います。

ある講演会で夢や希望の無い者は大勢いる！！そんな人はまず、目の前の人を喜ばせる事に全力を尽くしなさい～それを繰り返していれば、必ず何かが見えてくると言っておられました。

その実行の為には、たとえ「病気」にはなったとしても「病人」にはなってはいけません。病人になってしまうと、自分の事だけで他の人の事は全く考えられなくなります。そして、「笑顔」が消えていきます、つまり人を喜ばせられないという事です（結果、「病気」も治りにくくなってしまいます。）

P.S.

本年も一年間「心の栄養剤」をお読み頂き、ありがとうございます！！私（倉光）も毎月毎月「心の栄養剤」のネタを探すこと、コメントさせて頂くことで少し成長させて頂いたような気がします。

新しい年も皆様を、泣かせ～笑わせ～考えさせれるような「心の栄養剤」になるよう頑張ります。

一年間ありがとうございました。

